

雲ノ平～黒部五郎岳山行報告

【山行日】2021年 7月 30日～2日(金～月)

【集 合】岩舟支所P AM 2:00

【費 用】マイカー1台 : 48,000円

【メンバー】CL:鈴木 SL石澤 安西、清水、福島
30日 晴れ 折立登山口から太郎平まで登り、薬師沢
小屋へ下って宿泊する。

岩舟支所P 2:00 = 折立 P7:00/7:30 ~ 太郎平小屋
12:00/12:30 ~ 薬師沢小屋 15:00

いよいよ今年の夏山ビッグ山行がスタートした。朝2時に岩舟支所を出発し、北関東道から上信越道、長野道、北陸道を走り立山ICで降り折立に向かう。有峰口駅手前を右折して亀谷ゲートに着くと、料金所に車が列を作っていた。10分くらい待たされて通行料金1800円を払い、そのまま列をなして進むので時間が掛かってしまった。折立の駐車場に着くとほぼ満車で、奥の臨時駐車場に向かったが間違いだった。

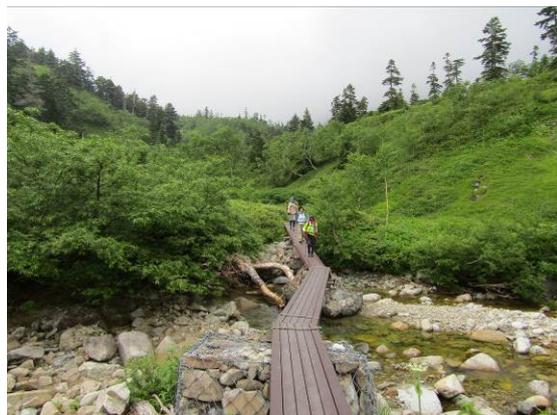


以前はキャンプ場の隣が駐車場だったが、そこはヘリポートになっていて駐車場はかなり奥になっていた。一方通行で戻ることは出来ず、そのまま臨時駐車場に車を止め出発の準備をする。支度が出来たら登山口に向かい、500mくらい歩いて折立休憩所に着く。休憩所前のトイレに入り、ストレッチを行って出発する。登山口から登り始めると、直ぐ左手に愛知大生を供養する塔が立っている。塔の前で手を合わせ、ここからしばらくは樹林の中の展望のない登りが続く。途中、クロベの大木の下の平らな場所で休憩し、衣服調整と水分補給を行う。ここからも樹林の中のえぐれた登山道を登り、標高1871mの三角点ベンチに到着する。明るく休憩にはうってつけの場所で、休憩を取る登山者で賑わっていた。三角点からはこれまでの登りとはうってかわって、草原と樹林が交互に続き明るく開放的な道になる。高度を上げるにしたがって樹林は姿を消し、キンコウカが咲く草原の緩やかな道を登るようになる。左手には薬師岳の姿が見えるようになるが、山頂部は雲に覆われて全容を見ることは出来ない。登りはきついが、吹く風が心地よく高原の中を気持ちよく登ることが出来る。2196mのピーク手前に五光岩ベンチがあり、ここで休憩を取って果物や菓子を食べてエネルギーを補給する。周りにはニッコウキスゲなどの花が咲き、疲れた体を癒してくれる。太郎平まで2Kmの標識があり、ここまでくればもう一頑張りである。皆さん元気そうに登っていたが、Aさんの足が止まった。足が攣りそうな感じがあるというので、休んでツムラの68番を飲んでしばらく様子を見る。ゆっくり休み休み登り、丁度12時に太郎平小屋に着いた。小屋の前では大勢の登山者がランチタイムで、我々も空いているベンチを確保しランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、パンやおにぎりをいただく。今まで天気が良かったが、西側から黒い雲が小屋の上空に掛かってきた。早めにランチを切り上げて、トイレを済ませたら薬師沢小屋へと向かう。太郎平小屋から南に50mほど行くと分岐があり、薬師沢小屋へは左手の山腹を巻く道を進んで行く。すぐに尾根伝いに下る道となり、薬師沢の源流部に向かって下って行く。太郎山に黒い雲が掛か



り、雷鳴が轟いて来たが東側は明るく晴れていた。

このまま下れば雨に降られず行けると、急いで下るが雨が降り始めた。それでも逃げるが、まもなく雨に追いつかれレインウエアーの上衣を着る。第一渡渉点まで下ると雨が小降りになり、暑いのでレイン



ウエアーを脱いだ。第二渡渉点を過ぎると雨は止み、沢沿いの道を快適に歩いて行く。所々に小さな湿原があり、ニッコウキスゲやコバイケイソウの花が目を楽しませてくれる。沢を渡るたびにアップダウンをくり返し、第三渡渉点を過ぎると笹原の中にベンチがあり休憩する。針葉樹と小さな草原のお花畑が織りなす景観は、北アルプスの奥深くまで歩いて来たと思わせてくれる。整備された木道がカベツケケ原まで続き、笹原の中にベンチがあり休憩したいが我慢して薬師沢小屋へ向かう。やがて木道が終わり、黒部川と薬師沢の二つの谷に挟まれた尾根を下ると赤い屋根が見え、岩の急坂を下って行くと薬師沢小屋に着く。

小屋の前のテラスでは、大勢の登山客がビールを飲んで寛いでいた。順番を待って受付を済ませ、2階の1部屋に案内された。2段に分かれて3組ずつ布団があり、下の段に女性3人、上の段に我輩と女性1人に決まる。荷物を整理し、着替えが済んだら外のテラスで反省会が始まる。薬師沢小屋は黒部川から10mほど切り立った断崖の上であり、テラスは黒部川の清流を見ながらビールを飲める。ビール党のS水さんは最初からハイボールで攻め、ハイテンションでピッチが速い。我輩もビールからハイボールに切り替え、皆さんも降りて来て2度目の乾杯をする。皆さんも「こんなすごい場所に来られるなんて信じられない」と興奮していた。結構酔いが回ったところに夕食となり、食堂に移動し夕食をいただく。ここでもS水さんが日本酒を買ってきて配り、飲みながら夕食をいただいた。部屋に戻ったら直ぐに布団にもぐり込み、そのまま朝までグッスリ眠れた。



31日 晴れ 薬師沢小屋から雲ノ平を経由し、黒部川源流に下って三俣山荘に行き、鷲羽岳をピストンで登り三俣山荘に宿泊する。

薬師沢小屋 5:00～アラスカ庭園 8:00/8:30～雲ノ平 9:20～祖父岳分岐 10:40/10:50～黒部川源流 12:20/13:00～三俣山荘 13:45/14:00～鷲羽岳 15:00/15:10～三俣山荘 16:00

朝起きると直ぐに外に出て、空模様を確認すると星空が見え安心する。昨夜いただいた朝食の弁当を半分食べ、準備を整えたらトイレを済ませ外に出る。赤木沢を遡行するパーティが、黒部川に入渓するのを見送り、我々もテラスでストレッチを行い出発する。黒部川を吊り橋で渡り、急なハシゴを伝って河原に下りる。河原沿いに少し下ると、すぐ右手に雲の平への標識がある。真っ直ぐ進むと大東新道経由で高天原へ続く道となる。ここからはよいよ雲の平への登りが始まる。最初にハシゴがあり、そこから樹林帯の中に向かって急登が続く。大きな岩がゴロゴロとした登りで、段差が大きいと力が無い女性は大変そうである。一步一步踏みしめて登って行くが、岩の段差に難儀してペースが上がらない。少し先行して待つが中々ついて来られず、急がせて足が攀ってはいけけないのでマイペースで登っ



てもらうしかない。とにかく木の根や湿った岩は滑りやすいので、ゆっくりと慎重に登って行く。ようやく

傾斜が緩くなり木道が出て来たが、直ぐに岩の道となり再び平坦な木道を進むとアラスカ庭園に着く。背の低い樹林に囲まれたアラスカ庭園にはベンチがあり、ここで朝食の弁当をいただく。薬師岳や水晶



岳の絶景を見ながらの朝食は最高に美味しかった。朝食を食べ終わった所に家族4人のパーティが来た。母親と子供3人だがすごく元気で、立山から五色ヶ原、薬師岳を經由し、太郎平から我々と同じコースを来たようだ。この先も三俣蓮華岳から双六山荘、槍ヶ岳を經由して上高地まで行くという。テント泊だが荷物は大きくなって、凄いお母さんが居るものだと感心した。ここからは良く整備された木道が延々と続き、ゆるやかなアップダウンを繰り返して雲上の楽園を歩いて行く。明日登る黒部五郎岳や水晶岳を眺めながらの快適な道だ。今まで雲の平は雨の天気が多く、4回目にして

初めて晴天に恵まれ、本当に素晴らしい景色である。チングルマやハクサンイチゲ、ヨツバシオガマ等々の花が咲き乱れ、今年はコバイケイソウの当り年で大群落をなしていた。遅れを取り戻そうとペースを上げるが、そんなことは全く気にせず花を楽しみながらゆっくり進む。皆さんルンルン気分でお花畑を楽しみ、スイス庭園のベンチで休憩を取る。

ここから少し登るようになり、ハイマツの中を登って行くと祖父岳への分岐に出る。休憩を取って果物や菓子を食べて、これからのコースを検討する。計画より50分程遅れており、ワリモ岳の岩場の通過などを考慮し、ここから黒部源流に下って三俣山荘へ行くことにした。祖父岳の西側を巻くように進み、日本庭園のお花畑を見ながら下って行く。ハクサンイチゲやアオノツガザクラ等の花を見ながら、第二雪田から第一雪田と下って行くが、雪が少なく登山道が出ており問題なく下れた。黒部川への下りに掛かると、谷の向こうに三俣山荘が見え「エ～あんなに下ってからまた登り返すの？無理！無理！」と叫んでいた。そんなことは無視してどんどん下って行くが、ザレた急坂にペースは上がらない。ようやく渡渉点まで下り、黒部川を渡渉するがここも大変だった。我輩が渡渉の足の置き場を見せながら渡ったが、最初の一步がなかなか出なくて危なっかしい。



ようやく全員渡り切り、少し上の黒部源流の碑が立つ広場でランチタイムとする。お湯を沸かしカップ麺



やスープと、弁当の残りやパンをいただいた。黒部源流の碑の前で記念写真を撮り、三俣山荘への登りに取り掛かる。沢沿いの道を登るが、チングルマやメタカラコウの花が咲き、とても気持ちよく登れる。ダケカンバの道を登り切ると小沢に沿った道になり、まもなくキャンプ場に出て左に進むと三俣山荘に着く。

受付を済ませて2階の部屋に案内され、荷物を整理したら鷺羽岳に向かう。我輩とAさんは明日の長丁場に備えて足を温存して小屋に待機し、3名は雨具と水を持って山頂に向かった。皆さんが戻ったら反省会を始めるが、外のベンチで待っても中々出てこない。ようやくKさんが来て、その後Hさんが来たがあとの2人はとうとう出てこなかった。6時から夕食になり、三俣山荘名物のジビエ料理「シカ肉のシチュー」をいただく。こんな奥深い山中でシチューをいただけるだけでもありがたいと、感謝していただいた。夕食の後は部屋に戻り、明日の準備をしてから布団にもぐ

り込み就寝した。

1日 晴後雨 三俣山荘から三俣蓮華岳、黒部五郎小舎を經由し黒部五郎岳に登り、北ノ俣岳を經由し太郎平小屋へ宿泊する。

三俣山荘 4:50～三俣蓮華岳 5:55/6:10～黒部五郎小舎 7:40/8:10～カール 10:00/10:10～黒部五郎岳 11:05/11:20～肩 11:30/12:00～中俣乗越 13:40～赤木岳 16:00～北ノ俣岳 16:40～太郎平小屋 17:40

夜中に雨が降ったようだが、朝起きて外に出ると月明かりに照らされた槍ヶ岳が見えていた。今日も



天気は良いようで、気持ちが明るくなる。朝食弁当を半分食べ、準備を整えたらトイレを済ませ外に出る。全員揃ったらストレッチを済ませて予定より早く出発する。キャンプ場の中を通り、正面の三俣蓮華岳に向かって登って行く。ザレた広い登山道を登ると、左手に槍ヶ岳のシルエットがくっきりと聳えている。さらに高度を上げると双六岳の向こうに、笠が岳の雄姿も見えてきた。皆さんから「ウワ～凄い！！」と歓声上がるが、登るペースは上がらない。ようやく山頂に着くと360度の大展望が広がり、西側に黒部五郎岳北側には鷲羽岳や水晶岳、南東側には槍ヶ岳がひと

きわ高い。「こんな凄い場所に立っているなんて信じられない」と感動していた。ゆっくり眺望を楽しんだら、黒部五郎小屋に向かって降りて行く。北西に向かって尾根道を下り、巻道と合さると2661mピークへ登り返す。ピークからは南西に下って行き、樹林の中を下るようになると樹間に黒部五郎小屋が見えてくる。小屋は見えるが中々着かず、ようやく平坦な道になると小屋に着いた。小屋の前のベンチを確保し、ここで朝食の弁当をいただいた。朝食が済んだら小屋のトイレを借り、水が心配な人は補充する。

五郎平の草原に付けられた木道を進み、灌木の中の道を登ると視界が開け岩の登山道を登るようになる。黒部五郎岳は美しいカールを抱く山で、カールの縁を巡るように岩壁が囲み、雪渓がその岩の間を埋める。カールの中を清冽な水が流れ、高山植物が彩りを添え実に美しい。そんなカールの中を歩き、沢の畔で休憩を取る。岩の上に座り美しい景色を眺めながら菓子やゼリーをいただく。いつまでも佇んでいたい気持ちを断ち切って、黒部五郎岳へのきつい登りに取付く。広い登山道の両側にコバイケイソウの大群落が広がり、「エ～こんなの見たことないよ」と言うくらい素晴らしい。次第に傾斜がきつくなり、カールの縁を目指して九十九折れに登って行く。一步一步ゆっくりしたペースで登り、カールの縁の稜線に出た。



稜線を左に10分程登ると、黒部五郎岳の肩に着く。このころからガスが掛かり、さっきまで見えていたカールが見えなくなった。肩にザックをデポし、水とご褒美のミカンを持って黒部五郎岳山頂に向かう。岩の急登を20分頑張ると標高2840mの黒部五郎岳山頂に着く。山頂からは360度の大パノラマが得られるはずだが、あいにくガスが掛かって眺望は得られなかった。それでも山頂を制覇した達成感は大きく、皆さん満面の笑みでご褒美のミカンを味わっていた。時折ガスが薄くなるとカールや近くの山は見えるが、雲の平や薬師岳は見る事が出来なかった。この先も長丁場なので、記念写真

稜線を左に10分程登ると、黒部五郎岳の肩に着く。このころからガスが掛かり、さっきまで見えていたカールが見えなくなった。肩にザックをデポし、水とご褒美のミカンを持って黒部五郎岳山頂に向かう。岩の急登を20分頑張ると標高2840mの黒部五郎岳山頂に着く。山頂からは360度の大パノラマが得られるはずだが、あいにくガスが掛かって眺望は得られなかった。それでも山頂を制覇した達成感は大きく、皆さん満面の笑みでご褒美のミカンを味わっていた。時折ガスが薄くなるとカールや近くの山は見えるが、雲の平や薬師岳は見る事が出来なかった。この先も長丁場なので、記念写真

を撮ったら来た道を肩まで戻る。肩でランチタイムとし、お湯を沸かしてカップ麺やパンをいただく。ランチが済んだらすぐに出発する。これからのコースはエスケープルートも無く、長く体力勝負の道のである。肩からザレた急坂を下って行くと登ってくるパーティが多く、疲れた表情で「肩までどのくらいで



ですか？」と聞かれた。「もう少しですよ」と励まして、我々も急いで下って行く。中俣乗越まで下るとハイマツとお花畑が広がり、皆さんも余裕の表情で歩いていた。ところがこの先から雨が降り出し、レインウエアーの上衣を着る。さらに進むと雨脚が強くなり、レインウエアーのズボンをはく。赤木岳手前の鞍部に着くと「ドドーン」と雷鳴が響き、赤木岳の上に真っ黒な雲が掛かり稲妻が走っていた。この状況では赤木岳を通過するのは危険と思い、ザックはカバーを上石の上に置き時計やカメラなどの金属はザックの中にしまう。ツェルト出して全員で被り、座って雷雨をやり過ごす。

皆さん楽しそうに「へ〜ツェルトはこうして使うんだ」「こういう経験も楽しいよね」と明るく話していた。10分後にはドシャ降りの雨になり、あのまま歩いていたら全身びしょ濡れになったな胸をなでおろした。

40分豪雨と雷鳴に耐え、ようやく小降りになったので出発する。まだ雷鳴が轟き小雨が降っているが、レインウエアーを着ていれば問題ない雨だ。赤木岳とその先の北ノ俣岳を超えれば落雷の危険は少ないので、急いで越えたいとピッチを上げる。ところが皆さんのピッチが上がらず、時間がどんどん経過して行く。北ノ俣岳を過ぎると緩やかな下りになり、お花畑が連続しとても素晴らしい。チングルマやハクサンイチゲの大群落が広がり、その中で休憩を取り花を楽しんだ。こんなに素晴らしいお花畑があった記憶は無いが、天気が良かったら凄い景色だろうと思った。太郎山に向かって湿原を横切って行くが、小さな池塘がある緩やかな草原はとても気持ちが良い。雨水でえぐれた溝状の道は、右側に階段状の木道が付けられて歩き易くなっていた。時間が気になり、太郎平小屋にTELするが通じない。太郎山手前の長い木道あたりから我輩が先行し、小屋の受付をすることにした。急いで飛ばし17時40分に着き、受付を済ませて皆さんを迎えに行く。太郎山に向かって木道を登って行くと、ガスの中に4人の姿が見えホッと胸をなで下ろす。夕食は18時20分からと言われ、まずは乾燥室に案内されて、濡れた衣類や靴、ツェルト等を干し部屋に行く。部屋で着替えたら、また濡れた物を乾燥室に干し食堂へ集合する。売店でビールやお酒を購入し、食事が用意されたテーブルでお疲れ様の乾杯！！食堂は我々だけで、「夕食が食べられて良かったね〜」と嬉しそう。女性達はビールをコップに分けて飲んでいたが、我輩はビールとお酒を2本いただいた。最後の晚餐としては少し淋しいが、夕食にありつけただけでも良しとする。部屋に戻って荷物の整理をし、乾燥室に行き干した物の様子を見る。ツェルトや靴の中を確認したが、まだまだ濡れていた。談話室でKさんとSさんがお話ししていたので、明日は出発がゆっくりなので我輩も一緒におしゃべりする。消灯前に部屋に戻り、布団にもぐり込んだらそのまま朝を迎えていた。



物の様子を見る。ツェルトや靴の中を確認したが、まだまだ濡れていた。談話室でKさんとSさんがお話ししていたので、明日は出発がゆっくりなので我輩も一緒におしゃべりする。消灯前に部屋に戻り、布団にもぐり込んだらそのまま朝を迎えていた。

2日 晴れ 太郎平小屋から折立登山口へ下り、吉峰ゆうゆうランドで入浴し有磯海 SA で昼食と買い物して岩舟支所へ帰着する。

太郎平小屋 6:25～五光岩ベンチ 7:30～三角点ベンチ 8:30～折立 P9:40/10:10＝吉峰ゆうゆうランド
11:00/11:50＝岩舟支所 P16:50

朝4時30分に起きて外に出ると、今日も良い天気で黒部五郎岳や薬師岳が見えている。今日の行程は3時間10分の下りなので、朝食を食べてゆっくり出発する。5時から朝食になり、食堂へ行き小屋の



朝食をいただく。4日間で初めて暖かいご飯とお味噌汁をいただき、皆さん「美味しいね～」と満足そうに食べていた。お代わりするつわものもいて、皆さん完食し「ごちそうさまでした」。部屋に戻り、出発の準備が出来たらトイレを済ませ外に出る。小屋の前でストレッチを済ませ、写真を撮ったら出発する。小屋のオーナーが見送りに出ている、「お世話になりました」とお礼を言って下山開始する。今日が一番天気の良い日で、薬師岳や太郎山などがくっきりと見えている。草原にはキンコウカの花が揺れ、有峰湖やその先に鋸崎山が見渡せる。絶好の展望を見ながら軽快に下り、

五光岩ベンチで小休止する。登って来るときは見えなかった有峰湖や鋸崎山に「こんなに綺麗に見えるんだ～」と感激していた。陽射しがあるとお花も元気で、ニッコウキスゲやコバイケイソウも輝いて見える。登りではあんなに苦労したのに、下りではルンルン気分で三角点ベンチまで下って来た。ここでも休憩を取り、菓子を食べて水分を補給する。ここから先は樹林帯に入り日陰になって歩き易いが、登りの人が増えて来てすれ違いで待つようになる。皆さんの会話は途切れず余裕で下り、予定通りの時間で下山できた。折立休憩所前のベンチにザックを下ろし、トイレを済ませたら冷たい飲み物を買って喉を潤す。落ち着いたら車まで移動し、靴を履き替え荷物を積んだら帰路につく。亀谷ゲートの先にある亀谷温泉「白樺の湯」に着いたが、温泉は午後1時からで入ること出来なかった。Sさんがネットで探して、ここから一番近い「吉峰ゆうゆうランド」を見つけ向かった。帰路の通りから数分入った場所にあり、地元のお年寄りが利用し賑わっていた。



温泉は広く色々な種類の浴槽があり、シャワーも沢山あってとても良い温泉だった。休憩所も広く昼食も食べられたが、皆さんが有磯海SAの海鮮丼を期待しているので却下。温泉を出て車に乗り、有磯海SAに向かった。有磯海SAに着き、フードコートで10食限定の海鮮丼を探したが無かった。係の人に聞くと「今は海鮮丼ではなく焼肉メニューの限定食になっているとの事。しかたなくレストランに入り、4人は鉄火丼セット、Kさんは白エビのかき揚げ丼をオーダーする。

どちらも美味しくいただき、皆さん満足したようである。お買い物の時間を取ってお土産を買い、岩舟支所へ向かって出発する。途中、東部湯の丸SAと出流原PAでトイレ休憩し、予定より早く岩舟支所に帰着した。